

宇宙通信アドバイザーボード（第7回）議事要旨

日時：令和7年7月30日（水）14：00～16：00

場所：ハイブリッド（国際会議室＋オンライン）

出席者：梅比良座長、甘木構成員、石田構成員、加保構成員、小塚構成員

議題

- （１） 宇宙戦略基金の執行状況について
- （２） 宇宙通信分野を取り巻く状況及び研究開発課題等について

議事要旨

梅比良座長により、議題に沿って議事を進行。

議題（１）について、JAXA より説明が行われ、その後、各構成員より議論が行われた。議論の概要は次のとおり。

- 宇宙戦略基金の執行に当たっては、報告を受けているだけだと、実態としては事業者任せで補助金を出して終わりということになってしまう可能性もある一方で、関与しすぎるとリソースがもたないということもあり、バランスを考えていけると良い。
- 宇宙戦略基金のような補助金で数年間賄うプロジェクトは、任期付きの採用が中心になってしまうため、学生が宇宙分野に就職しようというモチベーションにならない傾向があり、長期人材育成の面で課題は大きい。
- 受託事業者が、宇宙戦略基金による4、5年の比較的長い支援期間を使って、ビジネスにまでしていけるかどうかが一番大事である。ビジネス化できると人材が当該受託事業者へ就職するという流れができ、ポジティブループに回る。
- 宇宙分野における人材確保について、資金流入が進んでいるのに対して人の採用が追いついていない、採用ができてでも育成する時間がないという共通課題がある。本課題を迅速に解決することは難しいため、転職イベントの場や他業界から流入した方々が学べる場をつくる等業界全体として進める必要がある。

議題（２）について、宇宙通信アドバイザリーボード事務局より説明が行われ、その後、各構成員より議論が行われた。議論の概要は次のとおり。

- これまでの政府資金での支援はベンダーやオペレーターを対象とする案件が多く、ユーザーへ直接支援を行う案件はほとんどなかったため、案件のプロジェクト終盤に「ユーザーはどこだ」という議論が起きている。プロジェクトの初期段階からユーザーを見据え、ユーザーが共同提案するもしくはコンソーシアムに入る構造をつくれるよう、公募期間中のプロモーションを意識できると良い。
- 短期的には海外メーカーの技術を利用しても良いのでユーザーに新しいサービスを届けるようなオペレーターをシステムとして支援し、新しいサービスの社会実装を実現していき、中長期的にはそれを実現するような日本のハードの技術を支援していくという点を意識しながら研究開発を進めることも一案である。
- 従来、衛星通信は非常時通信等、特別なときに活用するケースが多かったが、これからは自動運転等のように常時使う可能性が出てきている。そのような衛星通信の新しい活用方法の実現に向けてチャレンジをしてもらえる仕組みを考えていただきたい。
- 自動車等を見据えた地上側の通信技術の開発について、安全性を非常に重視した結果、実証が前に進まないおそれもあるため、規制特区を設け衛星通信を活用したモビリティの実証実験をする等、全体のパッケージ設計はあり得るのではないか。
- 宇宙戦略基金を効果的に活用し、宇宙業界と自動車業界をうまくつなげられると良い。自動車業界は宇宙業界に入ってきているが、おそらく宇宙業界は自動車業界にあまり入れていない。宇宙通信が日本の最大の産業である自動車産業に貢献できることについて、大きな絵を描くには良いタイミングではないか。
- 通信の抗たん性を確保するため必要となる技術開発について、国外の制度に組み入れてグローバルな市場を広げられると夢がある話である。調達方針を工夫し、単に技術開発だけでなくそのような見通しを含んだ提案を求めるのが良いのではないか。
- Ka 帯、Ku 帯等の周波数資源のひっ迫に対して必要となる技術開発について、周波数帯を取りビジネスをすところまで視野に入れたい。ビジネスまで視野に入れた案件を支援するため、募集の仕掛けを工夫することはできないか。

- 衛星搭載アンテナの技術開発について、既存のダイレクト通信と比較して衛星数を減らす、あるいは低軌道衛星のアンテナを大型化する等の開発に限らず、日本のような限られたエリアに適した別のやり方はないのか問いかけがあると良い。

以上